キラッと光る技術で勝負する地域企業の取り組みをご紹介します。

平成 28 年度

元気企業だより

～がんばれおおむた企業！元気発進！！～

＜紹介企業等＞

- ◆飯田クリニックプロジェクト
- ◆有限会社 SOLIC
- ◆株式会社いなだ豆
- ◆有限会社山田屋茶舗
- ◆株式会社ヤマサキ

～補助金獲得、技術相談など、企業活動を支援します～

公益財団法人 大牟田市地域活性化センター

ＴＥＬ：0944（56）1717
Email：info@ecosanc.or.jp
ＵＲＬ：http://www.ecosanc.or.jp/tiiki/

詳しくはHPで！ →

元気企業だより　2016 Part 1　飯田クリニックプロジェクト

大牟田にも“プロジェクトX”があった！

ここ大牟田で、テレビ番組の「*プロジェクトX*」張りの事業が展開されたのをご存じですか？

今回は、「飯田クリニックプロジェクト」に参加し、平成27年度省エネ大賞「経済産業省 資源エネルギー庁長官賞」を受賞された企業の皆さんです。（写真右から、内記建築設計室、(株)今村組、(医)飯田クリニック、三建設備工業(株)、(有)ニューメディアエンジニアリング、(株)コゥ・テック）

ことの発端は・・・

飯田クリニックでは診療所の老朽化により建替えを計画。一旦は久留米の設計会社に依頼し、見た目の美しいデザインのビルが提案されていた。しかし、透析治療を行う飯田クリニックは一般的な診療所と比べ電気と水の使用量が多く、最新の医療機器を導入するにつれてエネルギー消費が増加していた。

飯田院長は来院者の快適性と環境にやさしい省エネ性を両立する「スマートクリニック」というコンセプトが頭から離れなかった。そこで、長年診療所のメンテナンスに関わった地元の建設会社に相談を持ちかけた。

＜太陽熱収集装置パネル＞

＜飯田クリニック全景＞

プロジェクト発足！

「スマートクリニック」プロジェクトに集められたメンバーはいずれも地元で、建築設計を内記建築設計室、電気･空調設計をニューメディアエンジニアリング、給排水･衛生設計をコゥ・テック、総合建築として今村組となった。うち３社は院長の出身校と同じく三池高校の同窓生だ。

プロジェクト発足後、週１回の設計会議を重ねるうちに最終の目標はオール大牟田企業による「クリニックＺＥＢ化の実現」へと向けられていく。

注：ＺＥＢ（ゼブ）とは、日本のCo_2削減目標を受けて建物の消費エネルギーを省エネや再生可能エネルギーの利用で削減し、限りなくゼロにするもの。鹿島･大成･清水建設など大手ゼネコンもその実現に力を入れている。

必然の出会い！？

透析中の患者は体温調節能力が低下することから空調による風を嫌う。そこで快適性を考慮し、冷暖房時に風を発生させない放射空調システムの導入を検討した。

このシステムを採用している北九州のクリニックを、プロジェクトチームで見学した際に出会ったのが、６社目のチームメンバー・三建設備工業だ。スマートクリニック実現に熱意であたるチームに必然とも思える三建設備工業との出会いにより、ＺＥＢの補助金獲得にチャレンジすることとなる。その意思決定がされたのは膨大な労力を要する補助金申請の締切り２週間前の事だった。

スタートからチーム編成でのマネージメントが功を奏し、「自然エネルギーを効果的に活用したスマートクリニック」のテーマで省エネ関連総事業費１億 8,470 万円のうち補助対象設備費の２／３の補助金を獲得。平成 26 年 11 月 15 日に 新「飯田クリニック」が竣工した。

＜天井に設置された放射空調＞

おもな設備と成果

その後、綿密な運用管理とチューニングによって当初のエネルギー削減計画を上回る省エネ数値（一般的な病院と比べ５９％のエネルギー削減）で推移した飯田クリニックと関係５社は、地方中小企業の連名では例のない「省エネ大賞」を受賞。省エネ大賞主催者からは「全国 10 万件ほどある小規模医療施設の模範となる！」との評価を得た。

【おもな省エネ設備】
①躯体高断熱　②Low-E 複層ガラスの採用
③透析排水の雑用水利用、屋上散水　④屋上緑化
⑤太陽熱利用システム（透析水昇温、給湯、放射空調）
⑥高効率空調・ＬＥＤ照明スケジュール制御
⑦待機電力カットシステム　他

◆　プロジェクトに関する問合せ　◆

有限会社ニューメディアエンジニアリング
住所：大牟田市本町５丁目2-１２
Tel：0944-57-1881 / Fax：0944-55-3499

◆　プロジェクト所在地　◆

医療法人　飯田クリニック
住所：大牟田市正山町２９
Tel：0944-53-4871 / Fax：0944-51-2802
URL：http://www.iida-clinic.jp/

元気企業だより　2016 Part 2　有限会社 SOLIC［ソリック］

日本初・NC 言語で動く造形ロボットが大牟田で誕生！！

現在、機械加工分野では、NC 旋盤、NC マシングセンタなどコンピューターに取り込んだ図面データを基に自動的に造形する機械が主流となっています。それには NC 言語の普及が大きく貢献しています。

また、ロボット業界では、メーカーはプログラムの重要な部分は公開しないまま独自の方式で自社のロボットを動かしていることから、だれもが簡単にロボットを使いこなすためには、新たな発想やアイデアが必要でした。

今回は、そのための独自の変換ソフトやプログラムを開発し、ロボットを汎用の NC 言語で自由に動かせる日本第一号の精密造形ロボットアームを誕生させた(有)SOLIC を紹介します。

ことの発端は・・・

当社は、木型製造業で NC マシニングセンタ３基、NC ルーター３基を所有しています。現在の産業用ロボットアームは、腕（アーム）の関節部分が弱いので、鉄などの硬い材料を削ることは苦手ですが、当社で行う木やプラスチックの加工には、強度的にも問題ありません。さらにマシングセンタよりも自由度が高いので、かなり複雑な形状でも一体的に削り出せるのではないかと考えました。

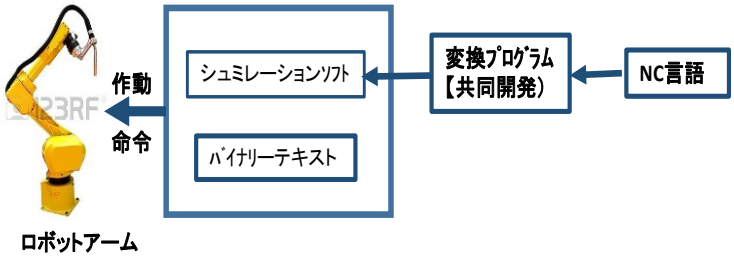
しかし、問題はプログラムでした。ロボットを NC 言語で動かせるようにする必要があったのです。

＜ロボットアーム、NC マシニングセンタ等＞

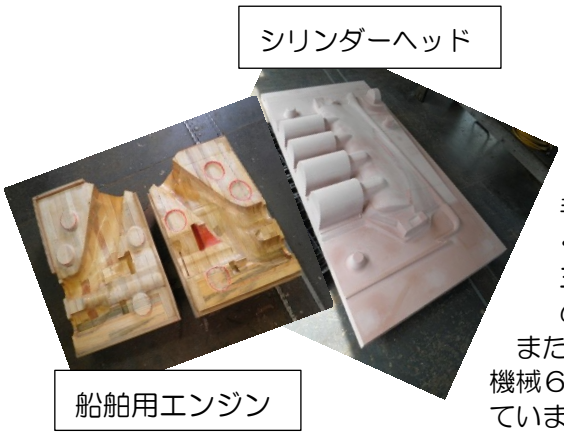
プログラム変更の必殺技！

実は、ロボット言語はメーカー独自のブラックボックスである「バイナリーテキスト」とそれにアクセスしてロボットを動かす「シュミレーションソフト」でできています。この「シュミレーションソフト」を独自に解読し、NC 言語でこのソフトが機能するための変換プログラムを開発したのです。

このことで汎用の NC 言語でロボットを作動させる事に成功しました。



会社の歴史を教えて下さい



元々、木型工場で働き、手作業で作っていました。木型は職人技の世界ですが、NC マシニングセンタとのコラボなら木型を効率よく作ることができると考えました。そして 2004 年に中古の機械を購入し、会社を設立しました。

その後、無償のサンプルを提供するなど多くの企業へ営業活動を続け、大手第一号のお客様は三井金属鉱業(株)のセラミック用木型でした。創業一年くらいで何とかやって行ける目処が立ち、今日に至っています。以降、(株)三井三池製作所、三菱重工(株)、(株)東亜機工などへタービン、船舶エンジンのシリンダーヘッドなど様々な鋳造用木型を納めています。

またマツダ(株)の自動車試作車のクレイモデルなども製作しています。現在、NC 機械６台と今回導入したロボットを含め、７台の機械を 4 人で駆使してがんばっています。

今後の抱負を！

木型作りは職人技。少ない社員と技を磨き、創業時の気持ちである「仕事を貰える有難さ」をモットーに顧客企業の皆様の良きパートナーとして、従業員とともに発展して行きたいと考えています。

代表取締役　草野　孝正

住 所：大牟田市四山町 80 番地 42
Tel：0944-56-7394
Fax：0944-56-7414
URL：http://solic.sakura.ne.jp/company.html

元気企業だより

2016
Part 3

株式会社　いなだ豆

あの懐かしの豆菓子会社が、ナッツの健康ブームを機に大ブレーク！！

大牟田で豆菓子といえば「♪～まめまめマミィー、まめまめマンボ・・・お豆いなだのいなだ豆！」のコマーシャルソングで慣れ親しんだ「株式会社いなだ豆」ですが、今回の元気企業だよりは世界のナッツに眼を向けた戦略を展開中の同社をご紹介します。

「いなだ豆」ではアメリカ、カナダ、オーストラリア、ブラジル、東南アジア等10ケ国以上からアーモンド、カシューナッツ、ピスタチィオ、マカダミア等の原料を輸入しています。

これらは焙煎や各種の味付け加工された後に、大手菓子メーカー(株)ロッテや中間原料を総合的に扱う商社 伊藤忠食糧(株)等の大手食品関係企業へ納められています。

最近市民の皆さんから「いなだ豆」の商品を見る機会が少ないと言う声を聞きますが、それは同社が自家製品の直販から、「各種豆菓子の製造と卸売り」に重点を置く営業方針に変更されたことによります。

決め手は「ロッテアーモンドチョコ」への採用

＜アーモンド焙煎機と製品のアーモンド＞

35年前、ロッテは、アーモンドチョコで先行している(株)明治に負けない味の焙煎アーモンドを探して全国を調査していました。

いなだ豆は、自社開発の“芯まで均一に焙煎できるガス流動焙煎機”を用いており、高い焙煎の技術力がロッテアーモンドチョコに採用されました。現在でもロッテ九州工場(筑後市)は「いなだ豆」100%の採用です。

また平成 28 年 3 月に発売されたイオン(株)のプライベートブランド「トップバリューアーモンド」も、100%同社製品が採用されました。現在のいなだ豆のアーモンド取扱い量は年間1,100トンで国内輸入量の約4%を占めています。

＜アーモンドの花と製品＞

会社の歴史を教えて下さい

昭和24年に「稲田製豆店」として創業しました。先々代（現社長の祖父母）が、そら豆を油で揚げて塩をまぶした「フライビーンズ」を天秤を担いで中島町の居酒屋やバーを売り歩きました。ビールのつまみとして大評判を取ったようです。業績は順調に伸び、昭和31年に「株式会社稲田製豆店」、同41年に「株式会社いなだ豆」と商号を変更し現在に至っています。この昭和40年代は、製造直販体制を取り九州各県、大阪に営業拠点を置いて、当時の(株)ニコニコ堂、(株)ユニード、(株)ダイエー等の大型商業施設を中心に「いなだ豆」ブランドで販売を拡大しました。しかしユニードやダイエーの合併に象徴される大型商業施設の盛衰に伴い営業部門を廃止し、およそ10年前から製造・卸業に重点を移しています。

３トピックス

①**ナッツブーム到来！**　クルミが動脈硬化を防止し血管年齢を若返らせるというテレビ番組で、ナッツブームが到来！世界中からナッツが輸入されています。その波及効果として世界のドライフルーツにも目が向けられました。当社でもアーモンドをはじめとする豆菓子とともにプルーン、マンゴー、レーズン等の商品化を進め、売上拡大中です。

②**すずめの卵は、いなだ豆のもの！？**　豆菓子の代表格である「すずめの卵」。この名称は、実は「いなだ豆」の登録商標です。豆菓子業界で自由に使用していただいています。見た目はほんとにそっくりですよね！

③**いなだ豆は日本一！？**　ビールのつまみとして大好評な「カキピー」、当社の「わさびカキピー」が関東で大ブレイク中！現在、おせんべいで有名な亀田製菓(株)と売り上げを競ってデットヒート中。

今後の抱負を！

今後、木の実の加工を増やし、アーモンドにおいては国内総輸入量の５%以上を弊社で加工することを当面の目標としております。そして、古今目まぐるしく変化する価値観の中、“世の中に必要とされる企業で有り続けること”を目標に全員で努力していきます。

代表取締役社長　稲田　秀成

住 所：大牟田市浜田町 10 番地
Ｔｅｌ：0944-53-2410
Ｆａｘ：0944-56-5036
URL：http://www.inadamame.co.jp/

元気企業だより

2016
Part 4

有限会社 山田屋茶舗

“茶ムリエ”って知っていますか？？

ソムリエはワインの目利きとしてよく知られていますが、日本茶の目利き“茶ムリエ”をご存知でしょうか？その合格率はソムリエがおよそ40%。一方“茶ムリエ”といわれる日本茶インストラクターの合格率は２５%とかなり狭き門です。

“茶ムリエ”は、「日本茶インストラクター協会」が認定し、アドバイザー、インストラクター、インストラクターリーダーの３段階があり、日本茶の普及活動を行っています。そのうちインストラクターは全国に約 3,000 人。そして山田屋茶舗の山田耕治氏はその最上位であるインストラクターリーダーの資格取得者です。今回の「元気企業だより」では大牟田・荒尾地区で７店舗を展開中の（有）山田屋茶舗をご紹介します。

日本茶インストラクターとはどんな資格ですか？

日本茶は、年に４回ほど茶摘みが行われます。春先の初摘み茶は淡い日光の下で、甘みや旨みの元であるアミノ酸（テアニン）を豊富に含む茶葉になります。強い日差しにさらされて季節が移るに従って、葉肉が厚くなり、苦みの元であるカテキンが増えてきます。したがって、産地と摘む時期によりお茶の味が微妙に変化するのです。

インストラクターの資格を取得するためには、お茶の歴史・栽培・製造・化学・淹れ方等 11 項目の筆記試験と茶の外見・香り・味覚等の鑑定試験をクリアする必要があります。

大牟田・荒尾地域においては、インストラクター３名のうち ２ 名、そしてアドバイザー７名のすべてが山田屋茶舗の所属で、普段からお客様の相談を承っています。

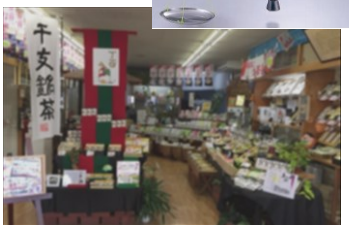
＜茶畑と茶摘み＞

会社の歴史を教えてください

祖父が昭和２０年１０月にお茶の行商を始めたのが当店の始まりです。当初は自転車に茶箱を積んで、その中のお茶を天秤ばかりで量り売りをしていました。

その数年後に上官町に第１号店を、二代目の父の時代に第２号店を開店し、現在は第７号店まで展開しています。お茶のほかにも関連商品として、急須・湯呑等の茶器、茶菓子、結納品セット等を取り扱っています。

また、お茶と海苔で有名な東京日本橋の老舗「山本山」のように、一般的に多くのお茶屋が海苔やシイタケ等を販売しています。これは、夏場にお茶の販売が低調になることの穴埋めとして、乾物や海産物を取り扱ったことが始まりといわれています。



新たな取り組み

現在、日本茶の消費は、ペットボトル等のドリンク系飲料を含めると総量としては増加傾向にありますが、茶葉については、急須を使ってお茶殻を始末しなければならないことなどから、茶葉離れが進んでます。ただ茶葉にこだわるお客様も多く、手間がかからずお茶本来の香りや味を楽しめるティーパックが喜ばれる傾向にあります。当店ではお茶の専門店として、甘み、旨み、アッサリ味、苦みといったさまざまな個性を持つ茶葉を製造販売しています。

今年度からは、店先でお客様の好みに応じたお茶を即座にティーパックにできる機械を新たに導入しお客様に提供する取り組みを開始し、大変好評です。

＜ティーパック詰め機＞

今後の抱負を！

「日常茶飯事」という言葉があるように、日常生活の中で日本茶文化や日本茶の正しい理解・普及を進め、日本茶とお客様との接点となって、日本茶の魅力を広めていくことが肝要と思っています。

これからもお客様のニーズを的確に把握して、今まで積み重ねた経験や築き上げた信頼の上に新しいものを加えて次の世代に引き継いでいく、つまり「暖簾に新しい風」を送り込むことが使命と考え頑張って参ります。

代表取締役社長　山田耕治

住 所：大牟田市上町２丁目3-3
Ｔｅｌ：0944-56-5467
Ｆａｘ：0944-51-6210
URL：http://www.yamadaya.info

元気企業だより　2016 Part 5　株式会社 ヤマサキ

創業 明治８年。三池炭鉱とともに歩いた“世界のヤマサキ”を紹介します！！

柳川・三池藩によって細々と採掘されていた三池炭鉱は、明治６年に官営化され国の経営となります。この時期に(株)ヤマサキの創業者（山﨑忠三郎氏）は、三池炭鉱選炭場への口入業（現在の人材派遣業）を開始しました。もともと左官・建築技術者だった忠三郎氏は、明治８年に築炉工事及び土木建設請負業の「山﨑組」を創設し、次々とコークス炉を建設して築炉技術が評価されるようになります。そして、その後の三池染料・三池合成（現 三井化学(株)の前身)、三池製錬などの大牟田石炭コンビナートのあらゆる炉の建設に携わることになるのです。なお、世界遺産に三池港が登録されていますが、実は三池港の岸壁工事を請け負ったのは「山﨑組」でした。忠三郎氏は三井鉱山の幹部クラスしか参列出来なかったその開港式に出席するほどの評価を受けたのです。今回は、大牟田の歴史と共に歩いて来た「株式会社　ヤマサキ」を紹介します。

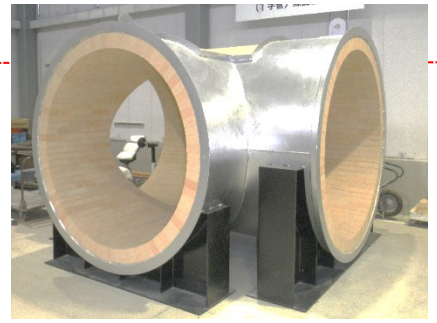
大手鉄鋼製錬会社が主な顧客のようですが？

＜コークス炉築炉作業＞

現在、新日鐵住金(株)、JFE スチール(株)、日新製鋼(株)など国内の大手鉄鋼メーカーが主要な顧客となっています。この関係も実は三池における築炉工事に端を発しています。

三井は大正 13 年、岩手県釜石の製鉄所の経営を譲り受けます。成長著しい鉄鋼業界に着目していた当社は翌年、これに伴って釜石に進出します。三池で築炉技術を確立していた当社は、釜石でコークス炉や高炉の建設工事に従事します。このことが、鉄鋼業界へ進出するきっかけとなり、大手鉄鋼各社との現在までのお取引につながっています。

山﨑高等技術専門校について


＜高炉付帯設備熱風本管煉瓦積み＞
(訓練用)

従来、築炉技能は徒弟関係で受け継がれていました。つまり、親方の個性を反映した技能が伝承されるのです。当社は、会社としての技能を標準化し、統一した技能を確立する目的で専門校を昭和 45 年に開設しました。以来今日まで、約 500 名の卒業生を輩出しています。専門校では、新人技能社員に１年間の教育を行い、入社５年目での技能士（国家資格）取得を目指します。

平成 26 年には更なる教育の充実を目指して、大牟田ベーシック校の最新の校舎が完成しています。

海外展開について

当社の初めての海外進出は、昭和 16 年の日本製鐵(株)朝鮮清津製鉄所溶鉱炉新設工事に参加したことです。日本製鐵は官営八幡製鉄と民間５社の製鉄所が合併されてできた国策会社ですが、三井の製鉄所が含まれていたので当社が選ばれたのでしょう。終戦までに朝鮮、満州、ボルネオと築炉工事に携わりました。

そして戦後、昭和 46 年再び韓国の浦項綜合製鉄所を立ち上げる築炉工事に関与しました。

これまでに技術者を派遣した国は、韓国、台湾、中国、ブラジル、ニュージーランドなど世界 20 ケ国を数えます。

今後の抱負を！

我社は、耐火物工事により高温・高熱を制御していく特殊な建設業(築炉業)です。

今後も山﨑高等技術専門校を中心に人材の育成に努め、築炉を主軸とした特殊な技術・技能の研鑽、継続に努めていきたいと思います。

またコンストラクション(建設)からメンテナンス(補修)までをキーワードとしたいろいろな分野で活躍をしていきたいと思っています。

代表取締役社長 山﨑一正

住 所：大牟田市大字橘 11 番地
Ｔｅｌ：0944-58-1366
Ｆａｘ：0944-58-5334
URL：http://www.yamasaki-grp.co.jp